

人権尊重の視点に立った授業づくりのポイント(例)

児童生徒が安心感や自信をもち、互いのよさを認め、支え合うような授業の雰囲気をつくりたいものです。そのためにも、児童生徒一人一人を温かいまなざしで見つめ、そのよさや可能性を伸ばそうとする教職員の姿勢「Mom（見つめる・思いをめぐらす・向き合う）」を大切にしましょう。

【大切にしたい視点】

- 1 児童生徒一人一人の「学びたい」という思いや、よりよい自分になろうとする姿を捉える。
- 2 全ての児童生徒が安心して学び、学習内容の定着が図られるためにはどうしたらよいかを考える。
- 3 全ての児童生徒が、互いの思いや願いを大事にし、授業を通して高め合う雰囲気づくりをする。
- 4 全ての児童生徒にとってよりよい生き方につながる授業の指導内容・方法の工夫・改善を進める。

【具体的なチェックポイント】

- 1 授業前
 - 学習用具の準備ができない等、困っている児童生徒の背景を理解し、支援ができているか。
 - 気になる児童生徒のつまずきにはどのような原因があるのか、また、どのような支援ができるか考えられているか。
 - 互いの思いや願い、また、失敗までも受け止め、尊重し合える仲間づくりを行っているか。
 - 仲間づくりを基盤に、一人一人の児童生徒の主体的・対話的な学びが促進されるための工夫がなされているか。
- 2 授業場面
 - 児童生徒のつぶやきや意見が尊重されているか。
 - 全ての児童生徒が、分からないことを分からないと言って、安心して周りの児童生徒へサポートを求めたり、相手の意見を尊重しながら一緒に考えたりすることができる学級の雰囲気ができているか。
 - 合理的配慮に基づいた場面の設定や、個別最適な学びの場の提供がなされているか。
 - 正答だけを求めるのではなく、児童生徒の誤った回答や異なる認識による意見をもとに学びを深め、よりよい解決を求めていく学級の雰囲気ができているか。
 - 児童生徒一人一人が学ぶ喜びや楽しさを実感でき、学んだことがこれからの自分の生き方や在り方につながるような学習になっているか。
 - 欠席している児童生徒に対して、本人の思いや願いを理解しながら、授業の内容や様子を伝えるなどの学習保障がなされているか。